

項目	観点	教科書名			
		美術(9・開隆堂)	美術(38・光村)	美術(116・日文)	
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、どのような配慮がされているか。	・中学校の美術科で培った力を生かして社会で活躍する人たちからのメッセージで構成されたページ「暮らしに生きる美術」を設けるとともに、美術が実際に社会で活用されている事例を多く取り上げている。(1－P32～51) ・日本の伝統文化や伝統工芸を紹介することで、生活の中に生かそうとする心情を育もうとしている。日本の各地に伝わる工芸品を多く扱うとともに、伝統を生かしつつ現代の生活に合わせて使われている事例を多く紹介している。 ・古くからの美術文化だけでなく、日本の美術が世界に与えた影響の面からポーカロイドやイギリスの高速鉄道など生徒の興味を引く内容を取り入れて事例を紹介している。 ・国宝、重要文化財にはそれぞれ判別できるマークを付け、数多くの作品を掲載している。(例：1－P44～51 2・3P38～51, 84, 85, 88～91, 116, 117など)	・3年間で2冊(1年・2, 3年)の教科書としてまとめ、本来の美術科の目標を谷川俊太郎の「うつくしい！」という詩を引用し生徒たちに訴えかけており、内面の成長を育もうとしている。全国の中学生の美しさに対する生の声を手書きの文字で表している。 ・2, 3年P64, 65「季節感のある暮らしを楽しむ」では、和菓子を題材に、四季の美しさを暮らしに取り入れてきた日本の伝統を考えさせることができ、日本の豊かな伝統・文化に触れ、大切に守り伝えようとする心を育む内容となっている。 ・持続可能な社会のために行動できる主体性を育てるため、SDGsに関連する作例を幅広く掲載しているが、各ページの他の内容と同じ雰囲気で表記されているためわかりにくい。	・各学年始めのオリエンテーションでは、表紙に明示されているテーマ「1ー美術との出会い」「2・3上ー学びの実感と広がり」「2・3下ー学びの探求と未来」が理解できるよう構成されている。オリエンテーションでの発達段階に応じた作品や作家紹介「1ーアニメーションの背景画から風景を見つめ直して」「2・3上ーゴッホ」「2・3下ーガウディや日本の彫刻家」から、生活や社会の中の美術や、美術文化にふれる表現・鑑賞の活動へつなげようとしている。 ・2・3上P6～7「あなたの美を見つけて」では、中学生が見つけた生活の中の美を取り入れる学習になっている。全国の中学生在が撮影した身近なものの写真やレポートなどが掲載されていて、生活の中の美を感じることができる。 ・2・3下P30～31「仏に宿る心」では、修学旅行で生かすことのできる仏像を鑑賞する視点などを掲載し、美術の学びを学校行事に生かせるようにしている。	
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	・生徒同士の主体的な対話ができる活動場面を多く設定してある。話し合い活動を通じて、発想や構想を広げたり、問題を解決したりすることを「学習のポイント」で示してある。 ・共同制作や友達と関わりながら進める活動を多く取り上げ、対話が自然と行われるよう設定が工夫してある。(1－P26～33, 40, 41/ 2・3－P52～55, 66～73, 76～79, 86, 87, 90, 91, 94～105) ・各題材に掲載されたQRコードから、教科書に掲載した作家について解説した「ピックアップアーティストファイル」などのさまざまなWEB上のコンテンツや、作品を所蔵する美術館などへのリンクをたどることができ、生徒の探究的な鑑賞活動に対応している。	・1学年オリエンテーションの「美術ってなんだろう」では、図画工作科と美術科の違いを考える内容になっているが、言語活動に重点を置いているため、美術の表現、鑑賞の活動へつなげる工夫が必要である。 ・すべての表現題材に発想や構想の手立てを示しており、具体的にどのように発想を広げ、構想を練っていくのかがわかるため、主体的な学びに向かいやすくなっている。 ・2・3P10～「レオナルドとその時代」では、鑑賞をする題材でトレーシングペーパーを綴じ込み、書き込みができるようになっていて、一点透視図法などの作者の表現の工夫をより美感的に理解でき、学びを深めていくことができる。 ・題材に関連する技法の動画や掲載作品の音声ガイドなどのウェブコンテンツがあり、該当するページにQRコードが示されてあるため、生徒の表現活動や鑑賞活動に活用することができる。	・1P48～49「わくわくコミュニケーション」では、作家作品を多数掲載し、1P58～59「発想・構想の手立て」では作家の発想方法を紹介することで、主題を生み出す発想を引き出し、構想を深める手がかりとなるようにしている。 ・1P32～37「屏風、美のしかけ」2・3上P28～29「浮世絵はすごい」では、観音開きでの作品掲載や実物に近い色味と刷りの作品掲載によって、より作者の思いを考えて生徒同士で対話的な活動を行うことができるようになっていている。また、上記のページに、「造形的な視点」が吹き出して書かれていることで、対話的な活動(グループ活動)を行う時の鑑賞の視点とすることができる。 ・紙面に掲載されているQRコードから、学習を深めるためのコンテンツを見ることができる。各冊の裏表紙には、表紙作品に込められた作者の思いや、描かれた背景を紹介する動画が収録されていて、生徒の興味を引く内容になっているため、授業の導入に活用できる。 ・2・3上P 32～P33「伝統工芸の技」を大判で載せ、生活の中に生きる職人魂をわかりやすく著している。	
3 配列・分量	○題材の配列や分量には、どのような特色があるか。	・義務教育段階の普通教育として、各個人の能力を伸ばすことができるよう生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組める題材を取り上げており、発達段階に応じて系統的に配列してある。 ・小学校図画工作科と中学校美術科の学習の関連に配慮し、「図画工作から美術へ」や「学びの地図」などのページで学習の質的変化に対応できるように構成している。(1－P4, 6, 7 2・3－P92, 93, 123) ・各題材の軽重によってページ数を変えてバランスを考えて配列している。その中から地域や学校の実情に合わせて題材を選択し、柔軟な指導計画が立てられるように配慮している。 ・各ページの連携がわかりやすくマークで表示されている。(1－P16～19, 24～29 2・3－P10～17, 38～57, 96～101) ・題材数: 87	・「絵・彫刻」「デザイン・工芸」「学習を支える資料」の順番に題材が配列されており、ページにも色分けの工夫があって分かりやすい。巻末には資料が掲載されており、技法や用具の使い方について調べられるようにしてある。 ・題材の内容に応じた分野ごとの構成になっており、生徒が学習内容をイメージしやすいよう配慮されている。 ・巻末に材料や用具の扱い方や[共通事項]に関わる資料などをまとめた「学習を支える資料」を設け、生徒が必要に応じて活用することができるよう配慮されている。 ・教科書全体を通して、絵や彫刻、デザインや工芸の他、カメラや情報機器を使うなどさまざまな技法の作品を幅広く取り上げ、生徒が多様な表現方法の中から自分の主題に合う物を選択できるように配慮されている。 ・鑑賞中心の題材では、他者と対話する、作品を比較する、美術文化について知識・理解を深めるなど、多様な切り口の鑑賞活動がバランスよく示されている。 ・題材数78	・テーマが分けられた3冊分なので、発展的な学びができる。 ・題材ページは「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」と、領域・分野別の構成となっていて、それぞれの題材には、短時間でできる題材も設定されているため、学校の実態に合わせた指導が可能である。 ・主文では、生徒が「造形的な視点」や中心となる考え方を意識して題材に取り組むことができるように、イメージを広げやすい言葉を選び、工夫されている。 ・つくる過程などを図示することで分かりやすく、生徒が主体的に活動できるように示されている。また、材料や用具の取り扱いについては、巻末にまとめられ、いつでも参照できるように工夫されている。 ・題材数104	
4 表記・体裁	○用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	・親しみやすい言葉や写真、イラストを使っている。制作の手順、材料・用具の使い方、技法の手立てなどを読み取りやすい視点で撮影し、わかりやすいように工夫されている。 ・題材名・主文・作品の解説などの文字は、すべての人に読み取りやすいようUD教科書体を含むユニバーサルデザインフォントを使用し、わかりやすいよう文字の大きさにも配慮している。 ・中学校以降で習う漢字や美術の専門用語についてはすべてふりがなをつけ、学習の入り口でのつまずきがないよう配慮されている。また、特別支援教育の観点としても効果的な表記である。(1－全般 2・3－全般) ・美術1の教科書において、ガイダンスの意味合いをもつ見開きのページが落ち着いたレイアウトと内容になっている。	・2・3年を1冊にまとめ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるように配慮されている。 ・図版と図版の間をあけたり、罫線を引いたりして、学習支援が必要な生徒にも、図版を明確に区別できるよう配慮されている。 ・バーコードなどのデザインが工夫されている。 ・部分的に紙の質を変え、手触りや風合いからも作品の雰囲気が伝わるよう工夫している。 ・2・3P24～26「北斎からゴッホへ」では、北斎とゴッホの代表作品を表裏で大きく掲載しているため、比較しやすく、作品の理解を深めやすいとともに、対話的な活動のテーマにも適している。	・題材の目標の観点が題材のはじめに3観点が示されている。マークで表示したり、色分けされていたりして分かりやすい。 ・ページデザインのバランスがよく、文字や図版を大きさの順にたどっていくと自然に学習の流れが把握できるように工夫されている。 ・A4ワイド判と大きなサイズであり、3冊で構成している。(1年生は1冊, 2・3年生は「上」、「下」に分冊, 総ページ数201) ・目次・教科書構成・マークの解説等が見開きで掲載されていて、一度に確認できわかりやすい。また、文字の大きさも適切で見やすい。 ・1P32～37「屏風、美のしかけ」で観音開きで作品を掲載している。作品のよさを伝える工夫がしてある。	